

### 1 学校名・教科型

海田町立海田南小学校 4教科型

### 2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	140	123	119	127	99	108	716	8	724
学級数	4	4	4	4	3	3	22	2	24

### 3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	6	1	2.6	5	3	1.7	1.7	3	1	2	1	2
3年4組 (担任:A)	A	A	A	推進	専科	専科	A	A	A	A	A	A

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任:B)	B	B	B	推進	専科	専科	B	専科	B	B	B	B	専科
5年2組 (担任:C)	C	C	C	D	専科	専科	C	専科	C	C	C	C	専科
5年3組 (担任:D)	C	C	D	D	専科	専科	D	専科	B	D	D	D	専科

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任:E)	E	E	E	推進	推進	専科	E	専科	E	E	E	E	専科
6年2組 (担任:F)	G	G	F	F	推進	専科	F	専科	F	F	F	F	専科
6年3組 (担任:G)	G	G	G	F	推進	専科	G	専科	E	G	G	G	専科

### 4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

#### <効果のあった取組>

##### ①授業の質の向上

- ・系統性を意識した授業づくりの実施。
- ・教科担任同士で授業の教材研究を行う。
- ・学級担任・教科担任で児童のつまずきを共有する。  
→授業で補充を行ったり、宿題・帯学習で復習を行ったりして、学力の定着を図る。
- ・全国学力・学習状況調査等学力テストの分析結果を生かし、教科担任制推進教員が中心となり全クラス共通で指導する。



## <効果のあった取組>

### ②多面的な児童理解

- ・日常的に児童の努力や成長、課題を共有する。  
→共有した情報を児童や保護者に伝える。
- ・「チームみなみ」（児童の頑張りや指導内容を記録）で児童の情報を交流する。

### ③小・中円滑な学校の円滑な接続

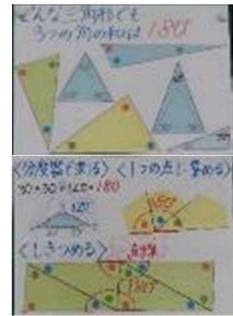
- ・学級担任間の授業交換を行う。（国語科・算数科・体育科）
- ・専科授業の充実。（5・6年生…理科，音楽科，家庭科，外国語科）

### ④教師の負担軽減

- ・作成した教材・教具等（具体物・データ）を共有する。  
例）5年算数科「図形の角」6年算数科「円の面積」
- ・専科・学級担任間の授業交換を行うことで教材研究をする教科等が減少する。（12教科等→6または7教科等）

### ⑤その他

- ・算数科・理科の苦手な児童を対象に，授業の予習・復習を行う学習会の実施。
- ・学習規律を学校全体で確認し，共通認識を持ち，どの教員も同じ指導ができるようにする。



## <成果>

### ①授業の質の向上

- ・教材研究を行った授業を複数回行うことで，授業改善を図り，より質の高い授業に繋がった。
- ・教科担任間で授業を交流することで児童のつまづきが明確になり，指導の手立てが工夫できた。
- ・複数学年指導することで，系統性を意識した授業を行うことができる。その結果，児童が既習を想起し，思考することで教科の本質を理解することに繋がる。  
（例）3年…算数科「小数」→整数の数の仕組みに着目し，表し方や仕組み・計算方法に活用。  
5年…算数科「四角形と三角形の面積」→既習の面積の公式を活用。
- ・全国学力・学習状況調査等学力テストにおいて，全国平均5pt上回るという目標達成。

	本校	広島県
国語科	74	69
算数科	69	64

### ②多面的な児童理解

- ・学級担任間で授業を交換することで，自分の学級だけでなく学年全体の児童理解が深まり，どの児童への指導も自分の学級同様に指導することができる。
- ・複数の教員（担任・専科・通級担任）で学年の児童を見ることができ，児童のよさや課題を共有することができ，多様な視点から評価・指導をすることができる。  
\*特に，肯定的評価をする機会が増え，児童の自己肯定感・自己効力感の向上に繋がる。
- ・「チームみなみ」を活用することで，担当していない学級の児童へも適切な声かけや指導をすることが可能になる。

### ③小・中円滑な学校の円滑な接続

- ・教師によって授業の進め方が違うため，児童が柔軟に学習方法を身に付けることができた。
- ・担任以外の複数の教員と授業を行うことで，中学校での教科担任制の授業への抵抗が少なくなっている。

### ④教師の負担軽減

- ・担当教科数の減少により教材研究の時間を十分に確保することができたり，同じ担当教科の教員と相談しながら授業を進めたりすることで充実した教材研究ができる。
- ・作成した教材教具等を共有することで授業準備の効率化に繋がる。
- ・学級の児童だけでなく，他学級の児童と触れ合うことで，教師自身の心のゆとりに繋がった。

## <成果>

### ⑤その他

- ・授業の前に学習会で予習を行うことで、児童の意欲向上・学力定着を図ることができた。
- 例)・授業中、自主的に問題に取り組むことができる。発表が増える。
  - ・「〇〇が分かるようになった・得意になった」という発言が聞かれる。
  - ・積極的に自主学習を行い、主体的に学習する姿が見えられる。
- ・学習規律（号令の仕方・持ち物等）を学校で共通理解を図ることで、どの学級でも同じ指導ができる、どの教員でも同じ指導が受けられるという、指導者・児童共に効果があった。
- ・参観授業で、学年間で授業を交換している授業等を見てもらうことで、保護者に取組を伝えることができた。



## <課題>

### ②多面的な児童理解

- ・学級のルールや配慮が必要な児童への指導が、担任と担任以外の指導者とのずれが生じ、児童が混乱することがあった。
- ・特別な配慮が必要な児童にとって、指導者が異なることで、指導が入りにくいことがある。

### ④教師の負担軽減

- ・学級ごとにルールが異なることで、指導の統一化を図ることが難しくなる。
- ・教科や教師によって態度が変わる児童がいたため、授業を受ける態度や言葉遣い等の指導が必要になる。

### ⑤その他

- ・担任が移動することで、教室に教員が不在の時間ができる。
- ・専科授業や学級担任による交換授業が増えると、学校行事等がある場合の時間割変更が難しい。



## <対策>

### ②多面的な児童理解

- ・特別な指導が必要な児童への指導、学級でのルールを事前に情報共有し、どの教員でも同じ指導ができるようにする。
- ・「チームみなみ」を活用し、積極的な生徒指導を行うことで、児童が安心して学習をする機会が増えるように努める。

### ④教師の負担軽減

- ・学習規律・授業を受ける時の決まり等、学年初め・学期初め等に関係教員で連携を図り、児童への指導が統一できるようにする。
- 例)・学年開きで、授業を受ける時の決まり等を指導する。

### ⑤その他

- ・学教行事等で通常通りの時間割で授業ができない場合は、高学年の授業に関係する教員で時間割を作成することができる時間を計画的に確保する。